

平成27年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績

平成27年のトピックス

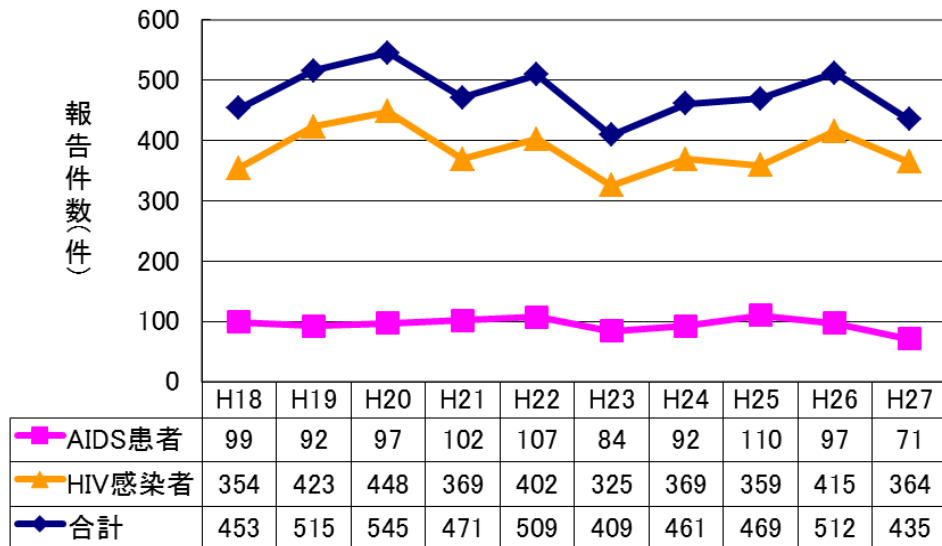
- 1 新たに報告されたHIV感染者・AIDS患者を合わせた数は435件で、4年ぶりに減少した。AIDS患者は前年から26件減少し、過去10年では最も少ない報告数であった(図-1)。
 - 2 HIV感染者・AIDS患者を合わせた報告数の概要として、主に以下のことが挙げられる(図-2、3、4)。
 - ・日本国籍男性は前年から88件減少したが、外国籍男性は前年から12件増加し、過去最高となった。
 - ・性的接触による報告数は90.6%で、男性同性間性的接触による報告数が77.9%と多い。
 - ・20歳代と30歳代が65.2%を占める。
 - 3 HIV検査件数は25,684件で、前年に比べて約7%減少した。一方、陽性率は近年ほぼ横ばいである(図-6)。
 - 4 HIV/AIDSと重複感染の多い「梅毒」(図-7、8、9)
 - ・平成27年の患者報告数は1,044件で、感染症法に基づく調査が始まって以来、最高となった。
 - ・性別では女性の割合が増加しており、特に20歳代は前年の約3倍と急増している。
 - ・男性は、近年、同性間性的接触の割合が50%以上であったが、平成27年は異性間性的接触の割合が増加し、同性間性的接触を上回った。
- ★都民には、HIV/AIDSの早期発見・早期治療に結びつくよう、HIV検査とともに他の性感染症検査を積極的に利用していただきたい。

1. HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

図-1
HIV感染者及び
AIDS患者報告数
推移
(過去10年)

ひとくち
×ME

HIV感染者：
HIV（ヒト免疫不全ウイルス）が体内に入り、感染しているが、「発症」していない状態。



前年と比べ、HIV感染者は51件減、AIDS患者は26件減の報告数であった。AIDS患者は過去10年では最も少ない報告数であった。

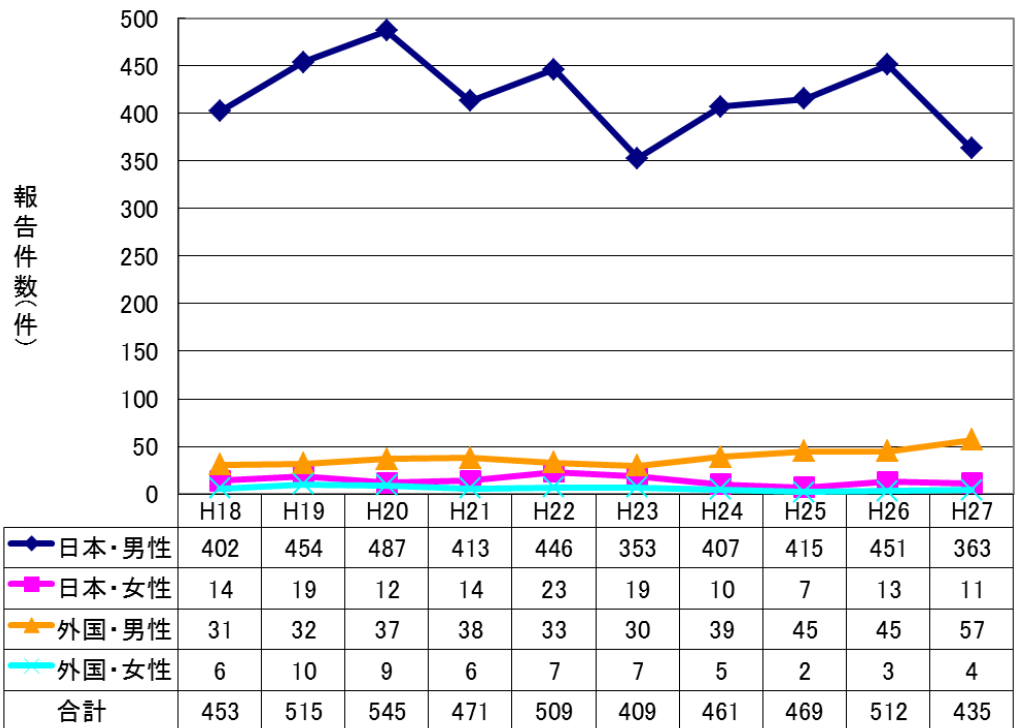
本報告は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、平成27年に報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。

なお、HIV感染者・AIDS患者の報告数、相談件数、検査件数については、過去のデータを見直し、更新されている。

図-2
HIV感染者及び
AIDS患者
国籍、性別推移
(過去10年)

ひとくち
×メモ

AIDS患者：
HIVにより免疫機能
が低下し、
「指標疾患」に
決められた疾患
の症状が認めら
れた場合。
無治療の場合、
感染から症状が
出るまで、数年
から10数年かか
るといわれている。

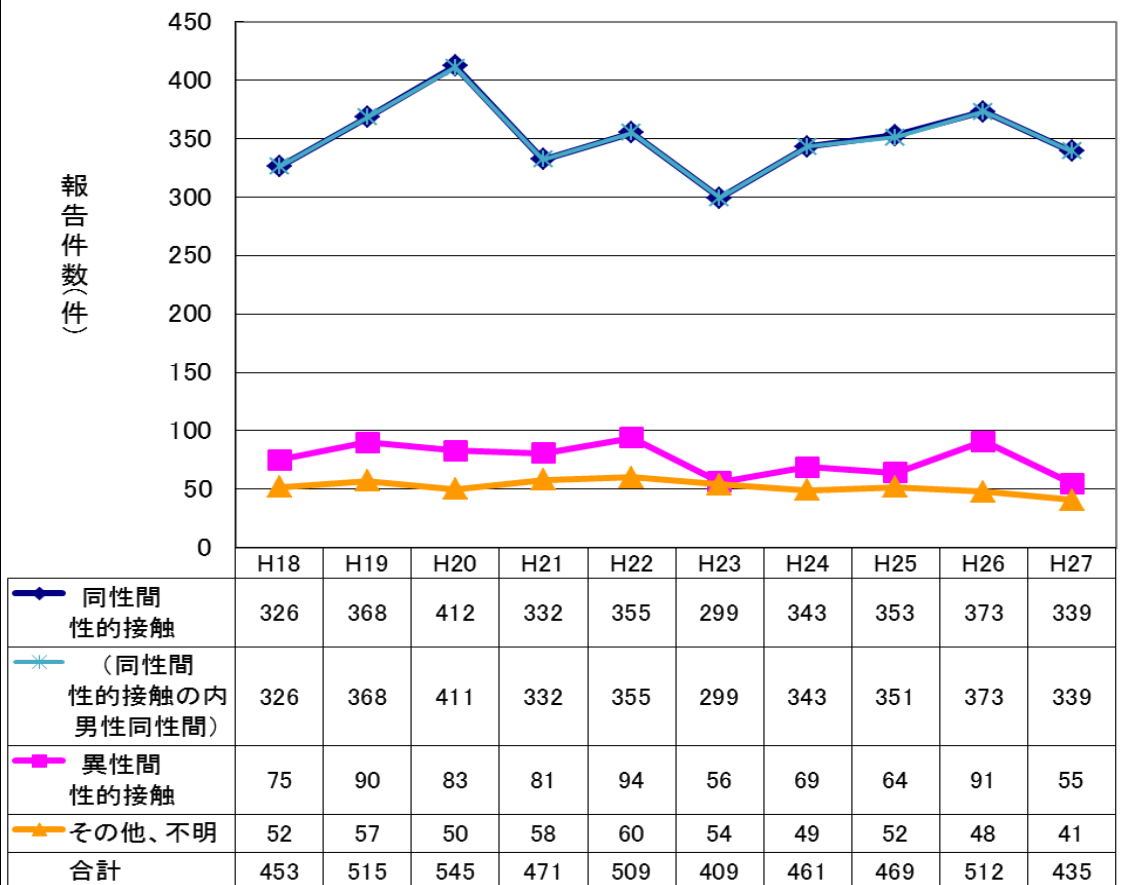


日本国籍男性の報告数は、前年に比べて88件減少した。
外国籍男性の報告数は、前年から12件増加し、過去最高となった。
日本国籍女性・外国籍女性の報告数は、近年ほぼ横ばいで推移している。

図-3
HIV感染者及び
AIDS患者
推定感染経路別
推移
(過去10年)

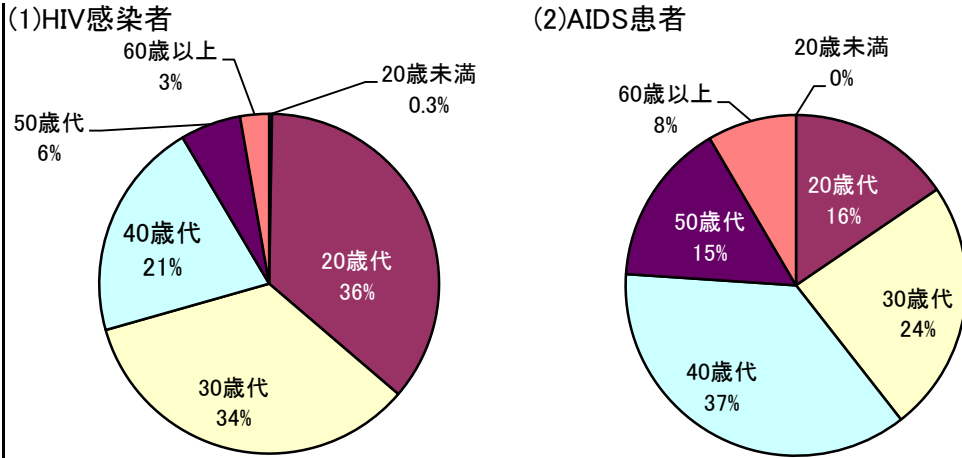
ひとくち
×メモ

その他、不明：
感染経路が不明
や複数であったり、
母子感染や
静注薬物使用の
可能性のある経
路などが含まれ
る。



同性間性的接触による報告数は、前年に比べて34件減少した。
異性間性的接触による報告数は、前年に比べて36件減少した。
その他のうち静注薬物の使用が原因と疑われる感染が4件報告された。

図-4
HIV感染者及び
AIDS患者の
年齢別割合
(平成27年)



	HIV	AIDS	合計	
	件数	件数	件数	割合
20歳未満	1	0	1	0.2%
20歳代	131	11	142	32.6%
30歳代	125	17	142	32.6%
40歳代	76	26	102	23.5%
50歳代	21	11	32	7.4%
60歳以上	10	6	16	3.7%
合計	364	71	435	100.0%

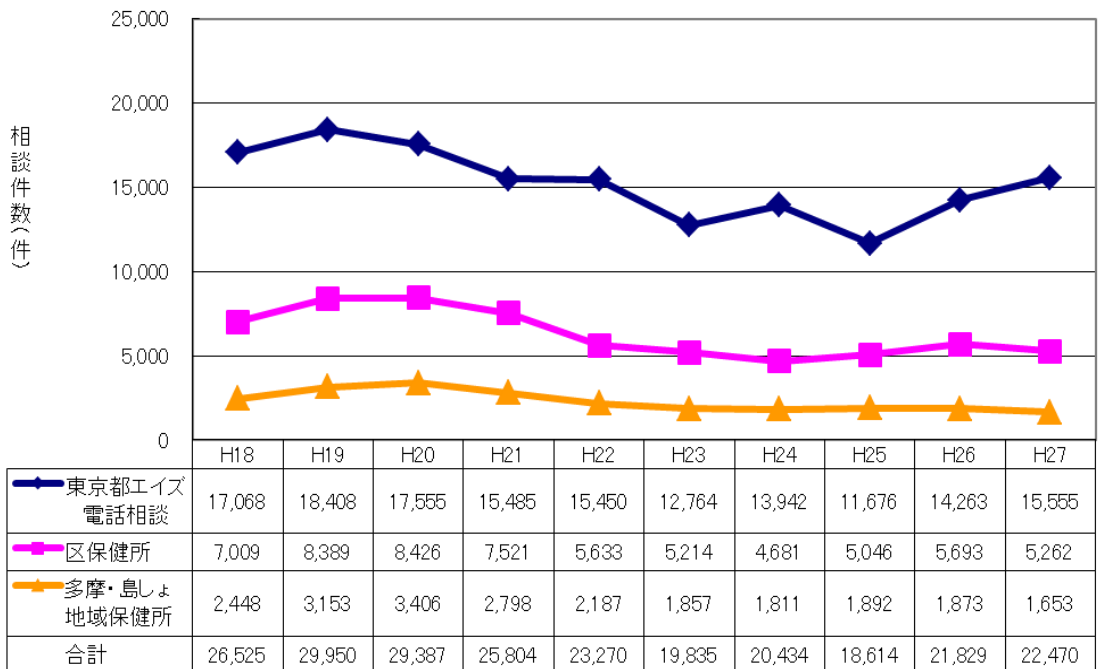
HIV感染者報告数は20～30歳代に多い。
AIDS患者報告数は40歳以上が約60%を占めている傾向が続いており、20歳代の占める割合が前年より増加した。

2 相談・検査体制

図-5
エイズの電話
相談件数推移
(過去10年)

ひとくち
XME

東京都HIV/エイズ電話相談；
03-3292-9090
平日は午前9時から午後9時まで、
土・日・祝日は午後2時から午後5
時までHIV/エイズ相談に応じて
いる。
なお、平成24年度までは「東京都
エイズ電話相談」であったが、
平成25年度から名称を変更して
いる。

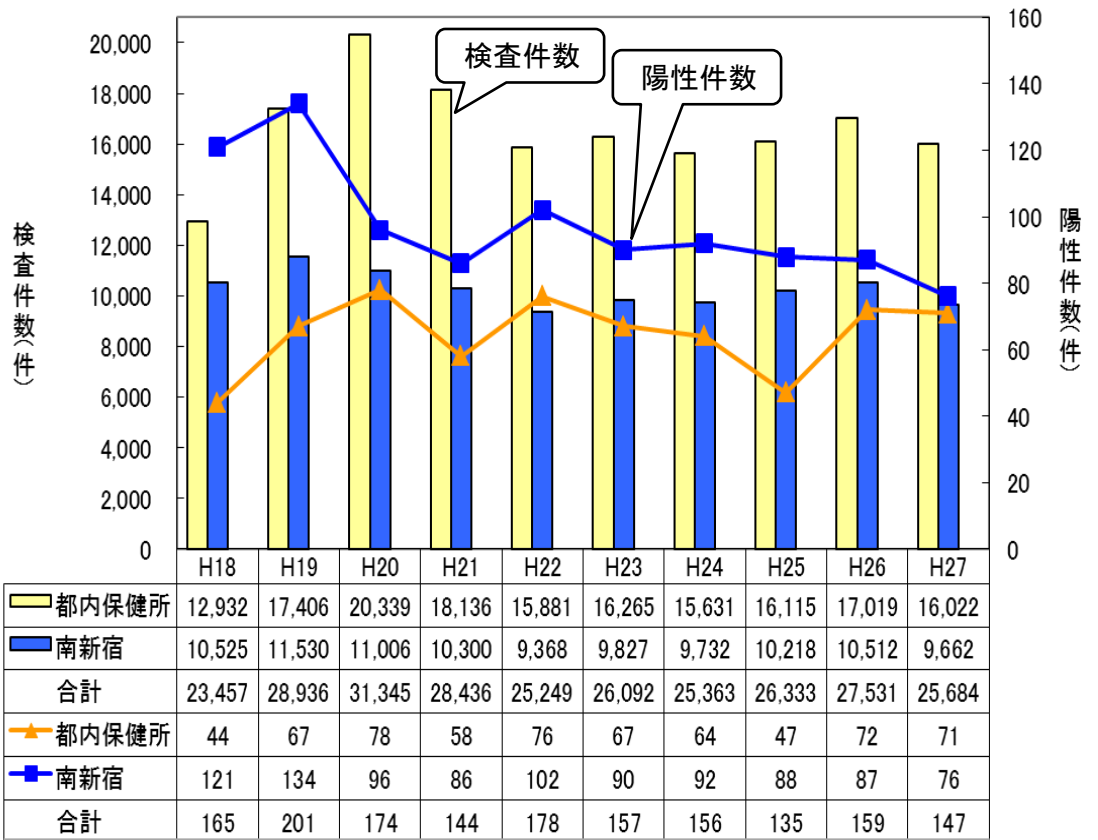


平成27年の電話相談件数は、前年よりも約3%増加した。東京都HIV/エイズ電話相談は約9%増加し、都内保健所は約9%減少した。

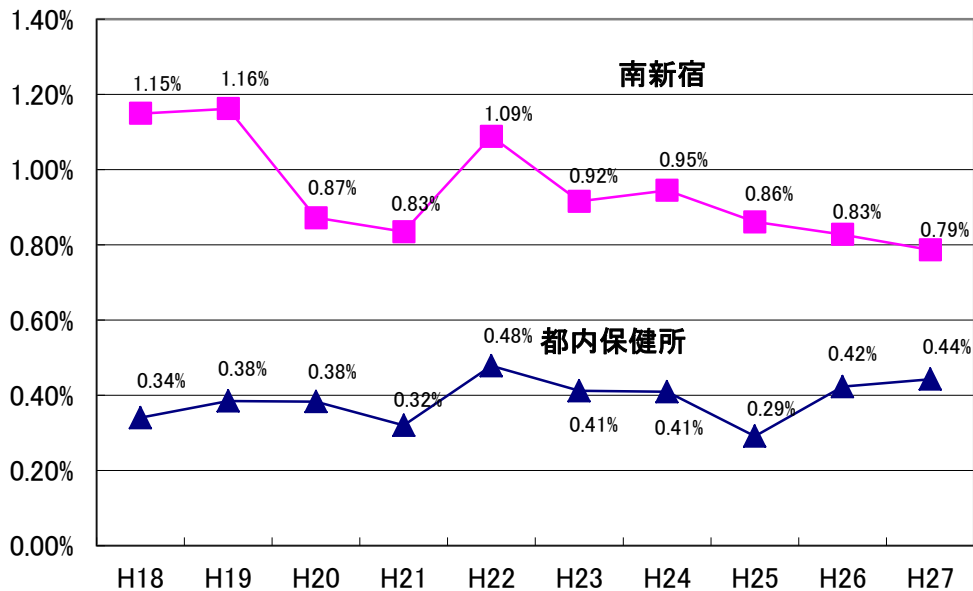
図-6
HIV検査件数、
陽性件数及び
陽性率推移
(過去10年)

ひとくち
メモ

東京都南新宿
検査・相談室；
新宿駅南口すぐ
そばに位置する
無料・匿名でHIV
検査が受けられ
る検査機関。
平日午後・夜
間、土日午後
に検査を行って
いる。
事業は、東京
都医師会に委託
している。



HIV検査陽性率



平成27年のHIV検査件数は25,684件で前年に比べて約7%減少した。都内保健所の検査件数は16,022件、南新宿検査・相談室の検査件数は9,662件であった。

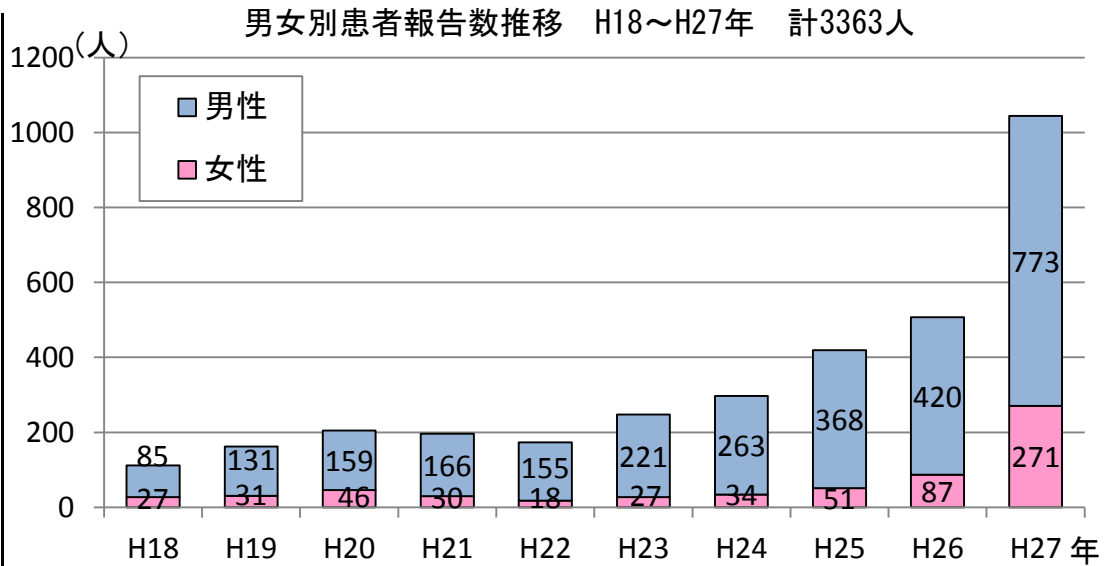
また、都内保健所の陽性件数は71件、南新宿検査・相談室の陽性件数は76件であった。陽性率は近年ほぼ横ばいで推移している。

3 他の性感染症情報「東京都の梅毒の動向」

図-7
梅毒の患者
報告数推移
(過去10年)

**梅毒の
基本①**

梅毒は、梅毒ト
レポネーマが原
因で起こる慢性
の感染症で、過
去の病気と思わ
れがちですが、
近年患者数が増
加しています。
性行為の時など
に粘膜や皮膚の
小さな傷から感
染します。



患者報告数は平成23年から増加に転じており、平成27年の患者報告数は2月15日現在1,044人で、感染症法に基づく調査が始まって以来、最も多くなっています。

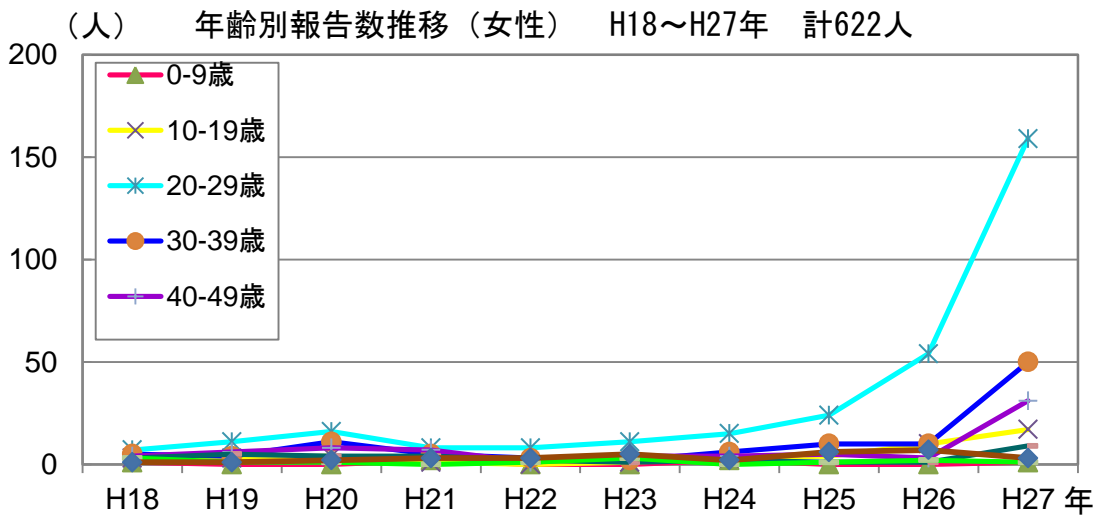
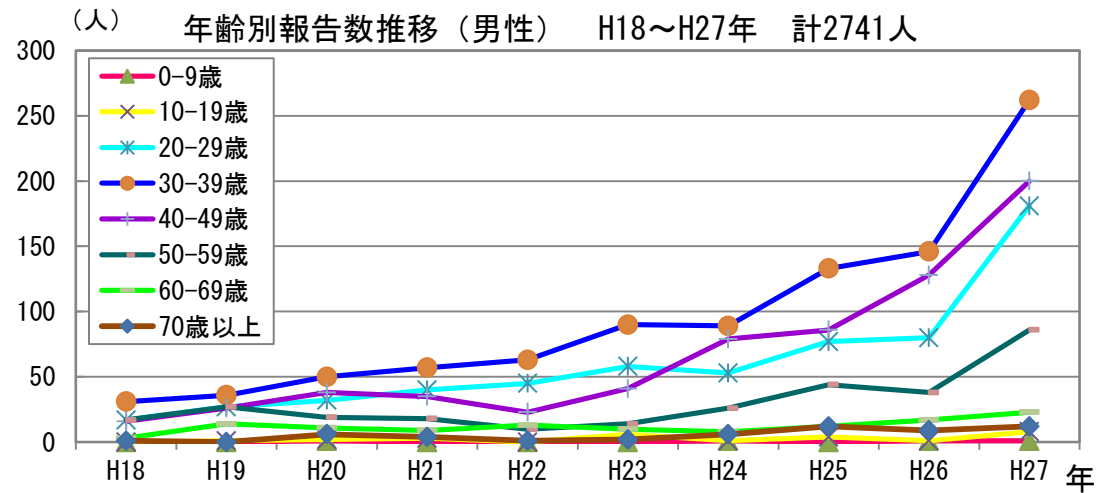
図-8
年齢別の
患者報告数推移
(過去10年)

**梅毒の
基本②**

梅毒に罹患すると、全身に様々な症状が出ます。

早期の薬物治療で完治が可能ですが、検査や治療が遅れたり、治療しないと、脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。梅毒に感染している人が妊娠すると、早産や死産、胎児に重篤な異常をきたすことがあります。

時に無症状になりながら進行するため、完治するまで治療を中断しないことが重要です。



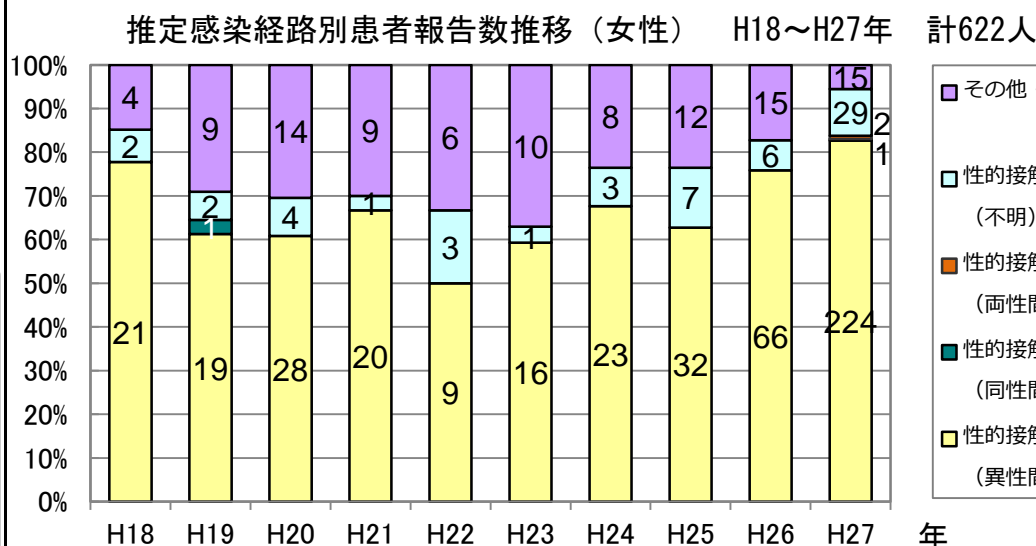
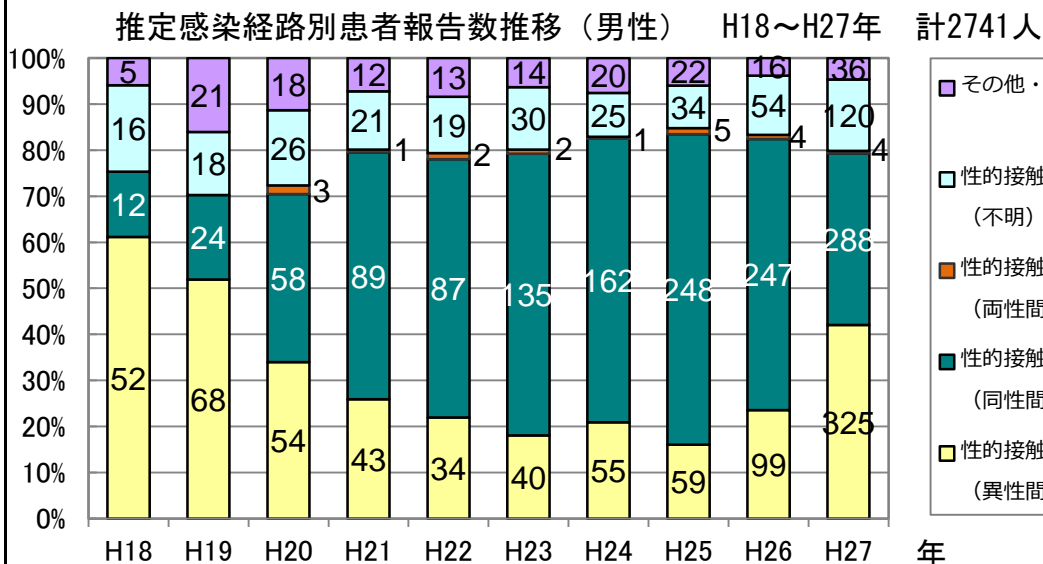
年齢別では、男性は20歳代から50歳代、女性は20歳代から40歳代が増加しています。

図-9
推定感染経路別の推移(過去10年) **梅毒の基本③**

梅毒の感染予防：コンドームの適切な使用が有効ですが、コンドームが覆わない部分で感染する可能性があるため、異常があった場合は早めに医療機関を受診しましょう。完治しても再び感染することがあるので、パートナーと一緒に検査・治療を行うことが必要です。

梅毒の基本④

梅毒は、発症と潜伏を繰り返すため、感染初期に発見できない場合があります。感染の不安、心当たりがある人は早めに梅毒検査を受けましょう。梅毒に罹患しているとHIVにも感染しやすくなります。梅毒検査と一緒にHIV検査も受けましょう。



男性は平成21年以降、同性間性的接触が50%以上でしたが、平成27年は異性間性的接触の割合が増加しています。女性は、異性間性的接触が50%以上を占めています。

図7~9 東京都感染症情報センター 梅毒の流行状況(東京都 2006年~2015年のまとめ)から作成
(注1)平成28年2月15日現在の報告数です。(注2)平成18年は第14週(4月3日)以降の報告数です。

- 【梅毒検査の情報】 東京都HIV検査情報Web <http://tokyo-kensa.jp/>
- 【梅毒の流行状況】 東京都感染症情報センターHP 「梅毒の流行状況」
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/syphilis/syphilis2006/>
- 【梅毒に関する情報】 東京都福祉保健局発行「性感染症(STI)ってどんな病気？」
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen.files/sti.pdf> よりダウンロードして使用できます。
厚生労働省HP 「梅毒に関するQ&A」

【発行】東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課エイズ対策係
郵便番号163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-4487 ファクシミリ 03-5388-1432 e-mail S0000312@section.metro.tokyo.jp